

チリカブリダニ製剤を用いたオウトウのナミハダニの防除

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

加温促成オウトウコンテナ栽培において、病害の発生を抑制させる栽培管理を行うには収穫後も雨よけ環境を維持する必要がある。その場合、ナミハダニによる被害が特に収穫後に甚大となるが、本種の対策として、天敵チリカブリダニの利用を確立したので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) チリカブリダニは、所定量の製剤をペーパータオル等で軽く包んで、各樹の主枝または側枝上の2箇所程度に引っ掛けるように放飼する(図-1)。
- 2) 放飼時期はナミハダニの発生初期とする。
- 3) 1樹当たりの放飼頭数は100～200頭である(図-2)。
(天敵製剤1本で10～20樹に放飼できる。)

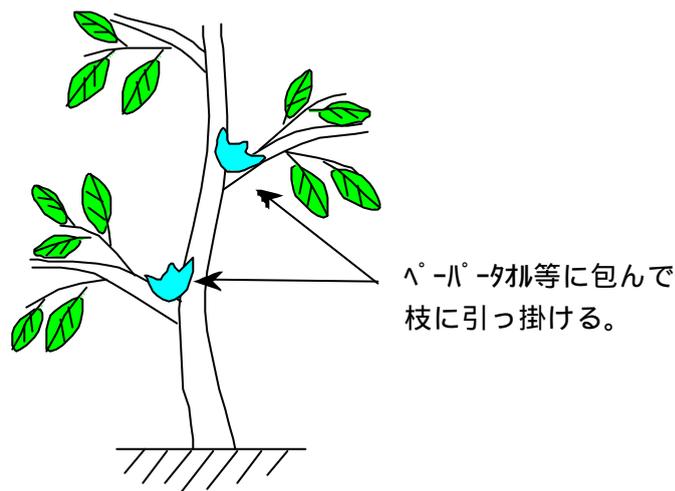


図 - 1 放飼の方法

3 利活用の留意点

- 1) オウトウに使用できる天敵製剤は「カブリダニPP」である。
- 2) 栽培様式は、加温促成のオウトウコンテナ栽培で、収穫後も継続して雨よけ環境下で管理する。
- 3) 雨よけ栽培に本技術を導入することにより、慣行管理における殺菌殺虫剤の多くを省くことができるが、カイガラムシ類の発生が認められたら、発芽前までにマシン油乳剤を散布する。
- 4) 本天敵製剤は500mlポリエチレン瓶1本に成虫2,000頭含有、価格は1本5,000円程度である。

(問い合わせ先 : 農業・園芸総合研究所 園芸環境部 電話 0 2 2 - 3 8 3 - 8 1 2 3)

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題及び研究期間
果樹の減農薬栽培技術の確立 平成 11 ~ 13 年
- 2) 参考データ

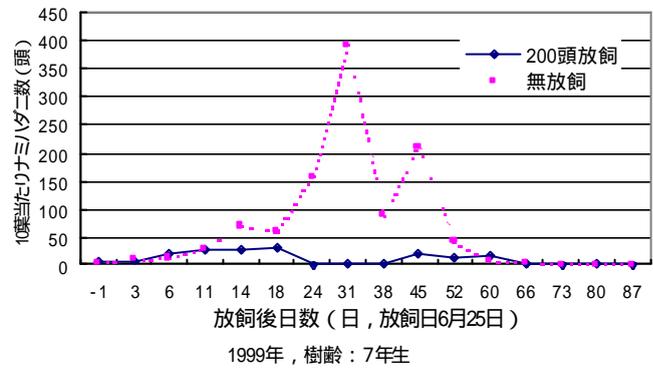
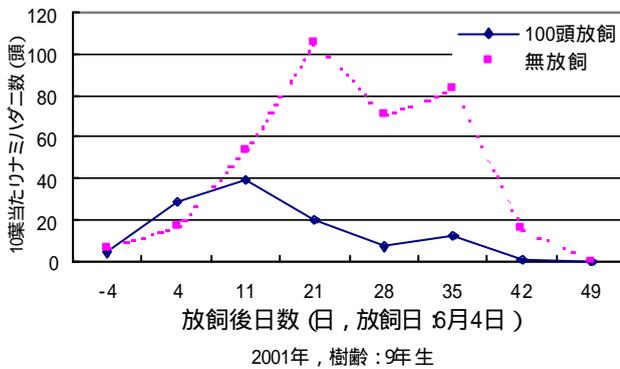
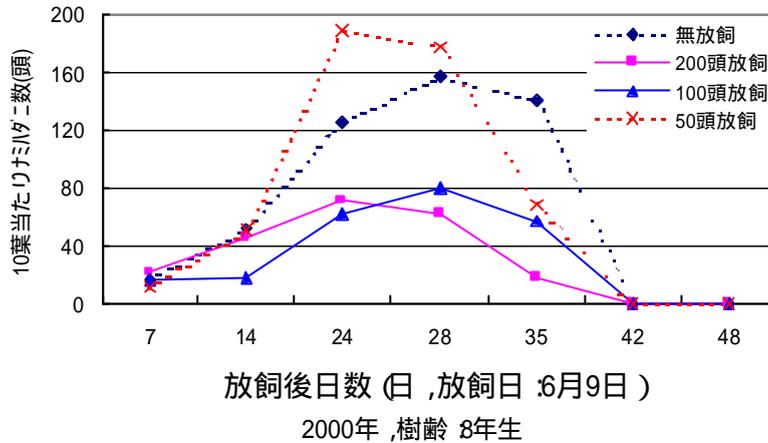


図 - 2 チリカブリダニ放飼によるナミハダニの密度推移

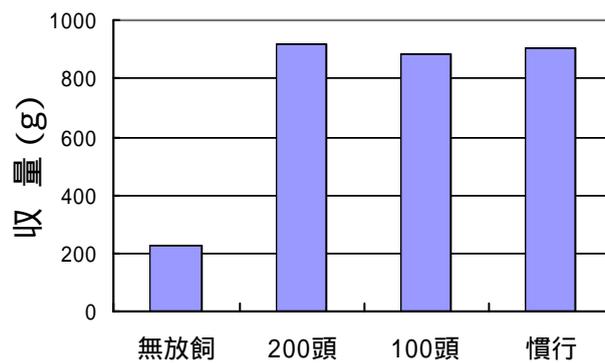


図 - 3 1 樹当たり収量 (2001 年, 佐藤錦)

3) 発表論文等

- 第 11 回天敵利用研究会大会 (2001 年) にて発表
- 第 46 回日本応用動物昆虫学会 (2002 年) にて発表
- バイオコントロール Vol.6 No. 1 (2002 年)
- 「天敵を使いこなす (仮)」(2003 年発行予定) に執筆中